

第4回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会 議事録

日時：令和7年8月26日（火）
午後2時00分

場所：第一庁舎4階 会議室141

長野市都市整備部都市計画課

第4回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会

次 第

日時：令和7年8月26日（火）午後2時00分から

場所：第一庁舎4階 会議室141

1 開会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 第4回専門部会の位置づけについて 【資料1】
- (2) 市民調査の結果の報告について 【資料2、3、4、5】
- (3) 学生と市長との意見交換会の報告について 【資料6】
- (4) 都市づくりの理念・目標及び分野別方針の改定の方向性について
 - ①都市づくりの現況と課題 【資料7、8、9】
 - ②都市づくりの理念・目標（たたき台） 【資料10】
- (5) 改定スケジュールについて 【資料1】

4 その他

今後の改定専門部会の日程

第5回改定専門部会 令和7年10月15日（水）14時から16時 会議室141

第6回改定専門部会 令和7年12月17日（水）14時から16時 会議室203

5 閉会

◎長野市都市計画マスタープラン改定専門部会委員

三 牧 浩 也	(東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任研究員)
森 本 瑛 士	(信州大学工学部 水環境・土木工学科 助教)
轟 直 希	(長野工業高等専門学校 都市デザイン系 准教授)
豊 田 政 史	(信州大学工学部 水環境・土木工学科 准教授) =欠席
三 浦 正 士	(長野県立大学 グローバルマネジメント学部 講師)
相 野 律 子	(公益社団法人長野県建築士会ながの支部 まちづくり委員長)
江 守 雅 美	(長野商工会議所 中小企業支援センター センター長) =欠席
善 財 良 治	(長野市農業委員会 北部地区調査会長)
市 岡 恵利子	(一 般 公 募)
藤 原 正 賢	(一 般 公 募)

◎説明のための出席者

都市整備部長	大日方	直毅
都市計画課長	飯島	章弘
都市整備部主幹兼都市計画課長補佐	古澤	潤
都市計画課係長	外山	平
都市計画課主査	高山	大輝
都市計画課技師	横山	翔太

◎開会

○事務局 お時間となりましたので、これより第4回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会を始めさせていただきます。本日の進行を務めます、都市計画課の古澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、委員の出席状況についてご報告いたします。現在ご出席いただいております委員は8名でございます。なお、豊田委員、江守委員から、事前に欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

また、当専門部会は原則として公開で行い、会議結果の概要につきましては市のホームページで公開することとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の進行につきましては、お配りしております次第に従って進めてまいります。その前に、資料の確認をお願いいたします。本日の資料は、先にお送りした資料といたしまして、次第、資料1「改定スケジュール」、資料2「市民意識調査の実施概要について」、資料3「市民アンケートの結果概要」、資料4「子育て世代に向けたアンケートの結果概要」、資料5「若者に向けたアンケートの結果概要」、資料6「学生と市長との意見交換会の報告について」、資料7「前回改定からの変化点について」、資料8「都市づくりの現況と課題」、資料9「現行計画における拠点圏域の現況について」、資料10「都市づくりの理念・目標（たたき台）」、最後に部会名簿。以上でございます。ご確認いただきまして、資料に不足がある場合はお申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは、お手元の次第に沿って、進めてまいります。

◎あいさつ

○事務局 はじめに、都市整備部部長の大日方からご挨拶を申し上げます。

○大日方部長 改めまして、皆様、こんにちは。都市整備部部長の大日方でございます。議長様はじめ委員の皆様には、計画策定に向けましてご指導、ご協力いただきまして、厚く感謝申し上げます。

本日は第4回の長野市都市計画マスタープラン改定専門部会ということで、お忙しい中、また、猛暑日が続く中ですが、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。先日の第3回の専門部会では、市民意識調査としてアンケート調査の実施内容について大変熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで予定どおり7月中旬から下旬にかけて調査を実施し、多くの市民の皆様から回答いただきました。本日はこのアンケー

ト調査の結果をご報告させていただくとともに、都市づくりの理念・目標や、それらを実現するための分野別の方針といった、計画の重要な部分の議論へと進んでいきたいと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

◎議事

○事務局　それでは、議事に移ります。長野市都市計画審議会運営要綱第7条第6項の規定によりまして、部会長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長　改めまして、皆さん、こんにちは。本当に暑い中、また、大変お忙しい中、今日もお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

前回までアンケートの実施に向けていろいろご議論いただきまして、それに従って、先ほどご報告いただきましたとおり、アンケートの分析結果を本日ご用意いただいておりますので、それを基にしながら、今日は最初の課題認識といいますか、今、長野市の都市、まち、地域全体がどういう状況にあるのかというところの課題を皆さんでまずはしっかり認識することに重点を置きながら、全体の理念や目標を決めていく入口にあたる会になります。とても大事な会になると思いますので、どういう認識の下、どういう方向のビジョン、プランを打ち出していくのかというところにつきまして、ぜひたくさんのご意見をいただければと思っています。よろしくお願いいたします。

本日の議事録の署名人について、最初に確認させていただければと思います。本日は、三浦委員と市岡委員をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、早速、議事に入りたいと思います。本日も2時間と予定されておりますが、大変たくさん資料と議事内容がございますので、できるだけコンパクトにやりたいと思います。説明も含めまして効率的にできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

(1) 第4回専門部会の位置づけについて

○議長　では、早速、最初の議事(1)「第4回専門部会の位置づけについて」の説明を事務局よりよろしくお願いいたします。

○事務局　それでは、事務局からご説明をさせていただきます。改めまして、本日もよろしくお願いいたします。今、議長からお話があったとおり、本日は議題も資料も盛りだくさんなので、まずはじめに、本日の部会の位置づけの確認をさせていただきたいと思います。

資料1「改定スケジュール」の、一番上の緑の行をご覧くださいと思います。本日は、赤く着色している8月26日の第4回部会です。前回まで議論いただいた市民意識調査の結果をご報告させていただくことと、一番は、この計画の根幹を成してくる都市づくりの理念・

目標と分野別の方針について、改定の方向性をまずは皆さんで共有して、文章案を次回以降でご覧いただくような形になると思うのですが、その前段階で前提条件をそろえておくということで、改定の方向性を議論いただく部会にしたいと思います。そして、次回の第5回、10月15日ですが、今日の話に基づき、事務局のほうで計画書の理念・目標と分野別方針に関するところの文章案のたたき台をお示ししたいと思いますので、そこでご意見をいただければと思います。続いて、12月17日の第6回部会では、お示したたたき台の修正事項や追加の観点など、もろもろあると思いますので、そういったものの修正版をお示しするとともに、現行計画の第1編、第2編の、長野市の地勢、都市計画の変遷、そのほか、議論というよりも事実ベースで時点修正する部分に関しても、ここで併せて全体をお示しして確定できればと思っております。ですので、第4回から第6回までを1セットで、都市づくりの理念と目標を作っていく大切な回になると思っております。

あと、それ以降の話ですが、12月からは、「市民・地域」の行で、地区別の懇談会に入っていくって、今度は地域別構想を作っていく際の参考とするために地域の皆さんと意見交換をしまして、併せて、庁内でも計画に載せていく施策・事業の照会もかけたいと思っております。それを踏まえまして、年度末から来年度の前半にかけて、具体的に地域別構想や立地適正化計画について検討していければと思っております。来年の8月頃に素案を作成できればと思っております。素案を作ったあとの、パブリックコメントなどの意見収集については、前回の部会で保留事項となっていたと思います。これについては、本日の議事（5）「改定スケジュールについて」のところでお話しさせていただければと思います。

まずは本日の位置づけということで、説明は以上です。

○議長 ありがとうございます。今、ご説明いただきましたとおり、12月までに今日を含めて3回の部会を経て、全体の理念や目標、方針を固めて行きたいということです。全体の位置づけ、進め方につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。

よろしいですか。では、大丈夫だと思いますので、次の議事（2）について事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

（2）市民調査の結果の報告について

○事務局 資料の2、3、4、5を使ってお話しさせていただきます。資料2に、各アンケートの共通部分や、こういった世代の方、属性の方から回答をいただいたかということをもとめていますので、まず資料2からご覧いただければと思います。

今回、ご存じのとおり、3つアンケートをしております。対象、目的はご覧のとおりです。実施期間としては、予定どおり7月14日に市民アンケートを発送、7月28日までの2週間。子育て世代と若者アンケートは7月15～28日の2週間実施しました。肝心の「回答数」の行ですが、市民アンケートにつきましては1,110名、回収率は37%ということで、目標にして

いた信頼水準 95%と標本誤差± 3 %を達成するのは 1,063 名なので、それを上回る回答をいただけた形になります。子育て世帯アンケートについては 640 名、若者アンケートについては 292 名、2 つを合わせると 930 名以上の方からご回答をいただきました。続いて、「回答者の主な属性」の「年代」の行をご覧くださいなのですが、市民アンケートに関しては、50 代以下の世代では配布数に対しての回答率が 2 ～ 3 割台だったのですが、60 代、70 代以上に関しては回答率が 5 割くらいという結果になっております。ただ、その代わりというわけではないのですが、右のほうに目を移していただくと、子育てアンケートでは 30 代、40 代の方から主に意見をいただけたということと、そのまた右に目を移していただくと、若者アンケートでは 20 代以下の方から多く回答をいただけたという結果になっております。そのほかの属性については、ご覧のとおりです。

個別のアンケートについての結果をご報告させていただきます。本来であれば全て詳細にお話ししたいところですが、時間の都合もございますので、特徴的な結果やポイントになりそうなところをかいつまんでご説明させていただきます。資料 3 「市民アンケートの結果概要」をご覧ください。

1 ページ目は、回答者の属性です。今、資料 2 でご説明したとおりですが、もう少し詳しく記載しているので、またご覧いただければと思います。特徴的なところとしては、右側の赤枠で囲った部分ですが、まず、今回回答いただけた方は、バス路線のバス停か鉄道駅のいずれかから 800m 圏内、もしくは両方から 800m 圏内の方が 80% くらいなのですが、そういう方から回答いただいたアンケートという前提になります。交通のところは重要な観点になると思うのでご説明させていただきました。

めくっていただいて、2 ページ目です。長野市の全体のまちづくりに関する設問になります。問 20 は、将来の持続・発展に向けて長野市はどのように力を入れていくべきだと思いますかという質問なのですが、左上の赤く囲んだところをご覧くださいと、上位 3 つ、「若い人がより住みやすく、子育てしやすいまちづくり」、「高齢者が安心して暮らし続けられるまちづくり」、「豊かな自然環境や優良農地を守り育てるまちづくり」が、いずれも 50% 以上の回答率があって、4 番目以降と有意差がある結果が出ております。一方で、年代別に見ていくと、18～39 歳では、5 番の「郊外型の大規模な商業施設の誘致・充実を目指すまちづくり」が高かったり、60 代以上の世代になると、6 番の「各地区のなかで生活機能の充実・維持向上を目指すまちづくり」、8 番の「高齢者が安心して暮らし続けられるまちづくり」が高いという結果になっております。続いて、問 21 ですが、こちらは移動手段についての設問です。回答が多かったのはバス路線の話です。選択肢で言うと 4 と 3 がいずれも 50% 以上で、3 番目の項目と有意差があると思います。年代別で見えていくと、18～39 歳が「鉄道の利便性の向上」が高かったことと、60～79 歳では「歩行者がより安全かつ快適に利用できる道路や環境の整備」が高かったことが特徴かと思います。次に、問 22 ですが、こちらは安全・安心の確保についての設問です。回答が高かったのが防犯対策と交通安全対策で、この 2 つが頭一つ

抜けています。年齢別で見ると、18～39 歳では「地震・火災対策」の回答率が高かったり、60～79 歳では「地域コミュニティの維持強化」の回答率が高いということも特徴かと思えます。右側に移っていただいて、問 23、問 24 です。こちらは記述式の回答なのですが、必須としてお願いしていたものです。テキストマイニングを見ていただくと、円の大きさと出てきた回数が多いもの、線の太さはそれがセットで回答いただいたものを表しています。ここについてはご覧のとおりとなっております。この辺りはキーワードを拾っていく意味でも、もう少し詳細に集計・把握して、計画に反映させていきたいと思っております。

3 ページをお願いします。これは、回答者の住んでいる地区に対する評価や、地区の今後のまちづくりに対する意向のページになります。問 15、お住まいの地区についてどの程度満足されているかという質問に対しては、およそ 7 割の方が「満足」「ほぼ満足」という回答をいただいています。全体ではそうなのですが、特徴的なところとしては、地域別に見ていくと、中山間地域では「やや不満」「不満」と答えた方が 4 割程度いらっしゃるというのが特徴かと思えます。それと関連してですが、問 16 の、10 年前と比べて暮らしやすさに変化があるかという設問に対しては、中山間地域で「どちらかと言えば悪くなっている」という回答が多いです。右上に目を移していただいて、問 17 です。これから先も今の場所に住み続けたいと思いますかという設問に対しても、中山間地域で「できれば別の場所や長野市内に移り住みたい」という回答がほかの地域に比べるといくらか高い傾向があります。左下、問 19、「お住まいの地区の交通環境について」という設問です。利用回数が多かったのが、自転車、自家用車、鉄道、路線バスといった結果になっています。特徴的な結果としては、左下のクロスになっているところですが、「最寄りの鉄道駅の距離と満足度の関係」を見ると、鉄道駅の場合は徒歩 10 分（800m 圏）より遠くても満足されている方が 20% いるのに対して、「最寄りの路線バスのバス停の距離と満足度の関係」を見ると、800m 圏内でも「やや不満」「不満」と答えた方が鉄道に比べて多いというのが特徴かと思えます。

続いて、4 ページをご覧ください。各項目について満足度と重要度を聞く設問です。一つ一つのグラフがありますが、まとめとして右上を見ていただきたいと思います。満足度と重要度の関係をそれぞれスコアにして位置を落としたものです。これで見ると、施策的に大切なものとしては、現状で満足度のスコアが低く、かつ重要度が高い、左上のエリアにあるものが重要改善領域として特にこれから力を入れていくポイントになるかと思えます。具体的には、介護・福祉環境の改善、歩道や自転車道の整備、子育て教育環境の整備、自宅や学校・職場以外に居心地がよいと感じられる場所というような回答になっております。市民アンケートについての説明は以上です。

次に、資料 4 「子育て世代に向けたアンケートの結果概要」をご覧ください。結果に入る前に、上のグレーの網掛けをした部分ですが、今回は広報した媒体として、市のホームページをはじめ、広報誌、LINE、X、生活情報アプリなどでも周知をさせていただきました。そして、個別の子育て関連施設でもプラスアルファの部分で周知をしまして、市内の全て

の保育園、幼稚園、認定こども園、地域型保育事業所で、保護者の方にメール配信などをしたり、さらに、地域子育て支援センターにポスターを掲示したり、子ども広場やながのこども館「ながノビ！」でもポスター掲示をしたり、あと、「ながノビ！」では、いらした方1組に対して名刺サイズのQRのチラシを配るなどして周知しました。そのかいあってか、640名の方から回答がございました。回答者の属性については、先ほどの説明と重複するところがあるので飛ばさせていただきます。

2ページをご覧ください。長野市の子育て環境に対する評価や意向についての設問です。

(1)「長野市の子育てのしやすさ」の、問12「長野市は子育てしやすい環境だと思いますか」という設問に関しては、「とても子育てしやすい」「まあまあ子育てしやすい」が半分以上なのですが、子どもの年齢別に見ていくと、年齢が低いお子さんをお持ちの方ほど「まあまあ子育てしやすい」という回答が低い。逆に言うと、「やや子育てしにくい」などの回答が比較的高い傾向にあるように思います。(2)「子育て中に訪れる施設や場所の満足度・充実度」では、特徴的なところとしては、赤いほうが「とても満足・かなり充足」なので、このバーが長ければ比較的良好という方向で、青いバーが長いとやや不満とか不満の側になりますので、どちらが多いかというところで見るといいかと思います。⑤の「散歩や少し子どもと遊べる公園」は、赤いほうの割合が押しているので良い傾向なのではないかと思います。反対に、⑬「雨天や冬期でも子どもが遊べる施設や場所」に関しては、「やや不満・不満」といった回答が多いです。

3ページをご覧ください。(3)「子育て環境としての満足度と整備・改善の重要度」の設問です。こちらもバーだけでは見にくいので、スコア化して、先ほどのように満足度と重要度の4象限に分けました。そうしますと、満足度が低く重要度が高いエリアとしては、通学路の安全性の確保、水路の安全性、冬期の通行の安全性、公共交通の利便性、夜間の通行の安全性、自転車の利用のしやすさといったところが、今後重点的に改善していく必要がある分野であろうということが分かってきました。

4ページをご覧ください。今後の居住意向や居住地の選択についての設問です。問20「あなたはこれから先も長野市に住み続けたいと思いますか」の回答については、全体としては住み続けたいという回答が多かったのですが、3番の「できれば別の場所に移り住みたい」という選択肢を年齢別に見ていくと、年齢が若い方ほどその傾向が強いという結果になっております。(2)の「住まい選びで重視すること」については、バーを平均スコア化したものを右下に載せております。こちらを見ていただくと、高いほうから低いほうに並んでいるのですが、ご覧のとおりとなっております。駆け足でしたが、以上が子育て世代に向けたアンケートの結果概要です。

資料5「若者に向けたアンケートの結果概要」をご覧ください。まず、上のグレーの網掛けですが、こちらにつきましても市のホームページをはじめSNSでの広報と、併せて、特出しの意味で、この部会に参加していただいている先生が所属されている大学、信州大学、県

立大学、長野高専をはじめ、長野市の高校である市立長野高校や、普段仕事でつながりのある長野工業高校などにも、学内のシステムや一斉メールなどをお願いして周知をさせていただきました。協力していただいた先生方、ありがとうございました。結果としましては、まず、右側の「2 移動手段の実態・評価」をご覧ください。こちらに関しては、自転車での移動が多いということ、それから、路線バスや鉄道を利用されている人の中で、問 12 の利用のしやすさについて「やや不満」や「不満」と答えた方が、鉄道やバスではほかの移動手段と比べていくらか多いというのが特徴ではないかと思います。

2 ページをご覧ください。左側の 3 「外出行動の実態」についてです。こちらは、左上にパーセンテージのバーを記載しているのですが、それよりも左下のヒートマップにしたもののほうが見やすいと思うので、こちらをご覧くださいながら話を聞いていただければと思います。お住まいの地区内での外出としては、「①食料品や日用品の買い物」が多い。長野駅周辺では「②ショッピングやまち歩き」「③飲食」「⑧友人・知人との交流」が多いという結果になってございます。特徴的なところとしては、「⑪レジャーや観光」では長野市外や長野県外へ行くという方が多いという結果になっております。右側に目を移していただきまして、「4 長野市の住みやすさに対する評価および今後の居留意向」でございます。「長野市は住みやすいと思いますか」という質問に対して、こちらは肯定的な意見が過半数以上という結果になりました。一方で、年齢別に見ていくと、25～34 歳の間で「やや住みにくい」と答えた方がほかの年代に比べると多いという結果になっております。右下の問 18 ですが、「この先、長野市外に移り住む可能性はありますか」という質問に関しては、過半数の方がその可能性があると答えております。問 19、「長野市に今後も住み続けたい、あるいは一度長野市外に移り住んだとしてもいずれは戻ってきたいという思いがありますか」という設問に関しても、その思いがあるという側の答えが過半数以上という結果になっております。

3 ページをご覧ください。地域の住みやすさに関する各項目について満足度と重要度を答えていただく設問です。こちらでも右上に満足度と重要度のスコアを 4 象限で載せています。この設問の中で浮かび上がってきたこととしては、このページの左側に赤字で囲んである重要改善領域に入っている、住宅の価格とのバランス、公共交通、子育て環境、働く場所、安全・安心に対するようなことが、今後改善が必要ということが分かってまいりました。

4 ページをご覧ください。「5 まちづくりへの関心度や要望および長野市の魅力」についてお伺いする設問です。問 24 「長野市全体やお住まいの地区のまちづくりに関心はありますか」という設問に関しては、8 割近くの方が「関心がある」「多少関心がある」という側で答えていただいております。最後、問 27 「長野市のまちの好きなところや良いと思っているところはありますか」という設問に関しては、6 割くらいの方が「ある」と答えていただいております。その具体的なおところについては、問 28 のような結果となっております。こちらはテキストマイニングで、文字が大きいところほど出現頻度が高いものを表しております。この辺りも長野らしさのところでキーワードとして使えればと思っております。

かなり雑ぱくで駆け足の説明になってしまったのですが、事務局からの説明は以上になります。

○議長 ありがとうございます。非常に膨大なアンケート結果を、今、かいつまんでご説明いただきました。ほかにもいろいろデータでまちの状況を整理していただいているものはありますけれども、市民の方々がどのように感じているかというところは非常に重要な情報になってくると思います。まず、このアンケート結果について、質問や、もう少しこの辺りの掘り下げたほうがいいのかとか、こういうところが大事だと思ったなど、コメントがありましたら、このタイミングでぜひいただければと思いますが、いかがでしょうか。どこからでも構いません。

○委員 よろしいですか。大した話ではないのですが、この回答の解釈をどうしていくかということに関して、特に市民アンケートなのですが、回答者の属性の辺りで実際の長野市の状況と違うというか、要するに偏りが出ているかどうか。例えば、市街地地域と市街地周辺地域が、実際は人口比はこうなのに回答はここが多いとか、あるいは、多分偏っている感じがするのは、持ち家の人の回答が多いので、その辺りが実際はどうなのかとか、その辺りの偏りの状況などが分かれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○事務局 まず、3地域の偏りがあるかというところで言うと、資料3の市民アンケートの左下を見ていただきたいのですが、3地域別を見ると「配布数に対する回答率」がほぼ横並びなので、これに関しては実際の長野市のバランスの縮図という形で回答が得られているのではないかと思います。

2点目の、回答者の住まいの居住形態について偏りがあるかという点については、まだ事務局でもそこまで集計できていませんが、大切な観点かと思います。アンケートを先月末まで行っていた関係で、ぎりぎりの集計で暫定版というところも含んでいますので、今後、その辺りも、特に地域別構想を考えていく時に、使いたい項目とか、プラスアルファでクロス集計したいところもあるので、その辺りは考えていきたいと思います。

○委員 ありがとうございます。意見として言うと、特にこの3地域別で満足度とか何を重視しているかというのは、クロス集計などして見たほうが良いような気がします。例えば、自転車道などは中山間地域でニーズが高いとはとても思えないとか、そういうところがあるので、そういう意味で、長野市は地域によって課題や状況が違うと思いますので、それが読み取れるようなクロス集計も後ほど何かあればいいと思いました。

○議長 ありがとうございます。その辺りはぜひよろしくお願いします。

その他、いかがでしょうか。

○委員 以前の会議の時に、今回の調査と前回の調査でひも付けられる、比べられるようなところは、なるべくそういうことをやっていきたいと思いますという話もあったと思います。今回、部分的に平成28年のアンケート結果をお示しいただいているところもあるので、前回のアンケートと比較してどう変わってきているのかというところは、今回は集

計結果を出していただいただけだと思うのですけれども、今後分析される予定があるのかということをお教えいただいてもよろしいですか。

○事務局 その辺りに関しては、後ほど、都市づくりの現況や課題の資料で比較しながら説明する場所もあるのですが、ただ、まだ粗々の集計をまず終えたというところなので、比較できるところ、すべきところは、今後していきたいと思います。

○委員 ありがとうございます。今回、重要度と満足度のスコアの2ポイントを閾値にして重要改善という形にいただいているかと思うのですけれども、過去の調査でも大事だと言われていて、まだ低いとか、過去は大事だと言っていて、今回、それが逆転しているというか、改善されているというようなところが見えてくると、その施策、今までやってきたことは間違いなかったとか、逆に、今までやってきたけれどもまだまだ足りないというところが見えてくるような気もするので、その辺りを少し丁寧に分析される必要もあるのではないかと感じました。

○議長 ありがとうございます。KPI とまで位置づけるかどうかは別にして、こういう数字を見ながらマスタープランを作って、施策を打った結果、どうなったかというのは、おっしゃるとおり、追っていくべき数字だろうと思います。前回から今回までどういった施策があったかということともセットにしながらかもしれませんけれども、可能な範囲でぜひ分析していただければと思います。

その他、いかがでしょうか。

○委員 直前に発言した委員とほぼ同じことを聞いてしまうのですけれども、例えば資料3の1ページ目の右側で、赤枠でわざわざ囲んでくださっているのですけれども、これは層別抽出の想定どおりの抽出になっているのですか。それとも、中山間のほうが回収率が悪いなどあるのですか。もしまだであればいいのですが、赤枠で囲むくらい重要なのであれば、そこがもし分かったら教えていただければと思います。

○事務局 地域別に関しましては、資料3の左から2番目の一番下に記載がありますが、実際の回収数に対する各地域の比率に加えて、配布数に対しての回答率を薄い水色のバーでお示ししているのですけれども、これを見ていただきますと、地域によっての回答率の差はなかったと。そして、この配布自体も、地域の人口比に応じて配布しておりますので、ほぼその地域の人口構成に応じた回答数が得られていると考えております。

○委員 では、この右側の、今、ヒートマップという形で鉄道・路線バスまでの距離を赤枠で囲んで80.9%というものを取り上げられているのですが、これはもともとの想定どおり、こういうエリアから取ってきたということですか。

○事務局 バスとか鉄道の距離のところですか。そこの一人ひとりがどの位置にある方かということまでは、基データでも把握ができていないので、そこの検証は難しいと思います。あくまでも今回の回答をいただいた方が、こういう所に居住する方々が回答されたというところまでしかはっきりとは申し上げられません。

○委員 人口比率を取れば分かりますよね。徒歩 10 分圏内居住者割合みたいなものは、公共交通カバー圏人口は各市町村で出していると思うのですけれども、例えば鉄道駅から 800m 圏内、かつバス停から 300m 圏内に居住している人口はいくらかというものがあれば。

○事務局 そうですね、そういうところとの比較であれば検証ができると思います。

○委員 これを 800m ではなくて例えば 400m などにすれば、一応、これと同じ人口比率が出せていて。

○事務局 そうですね。メッシュ人口を使って、800m 圏での鉄道からの人口などを出せると思いますので、そういったところとの比較はできると思うのですが、まだその部分の検証ができていません。

○委員 ここで特に 80.9% を取り上げるのであれば、その辺りが本当にそうだったのか、もしあったら知りたかったというのが 1 点目です。

2 点目もほぼかぶるのですけれども、例えば、資料 4 の 2 ページの下などで、クロス集計をしたあとに、これは年齢別に見せてくださっているのですけれども、特にこういう訪れる施設や場所みたいな満足度としては、この年代が施設の満足度が低いから頑張るというよりは、この地域の施設が少ないからこの地域を頑張ろうという施設配置の関係でいくと、本来クロス集計すべきは、お子さんの学年というよりは、先ほど 3 地域と言いましたが、本当は 12 地域とか 32 地域レベルでやっていただいたほうが、今後、その施設が足りないからどうするのかという議論になったときに、結局、どの地域が足りないのかという話になってくるので、客観的なデータとのすり合わせもあると思うのですけれども、これだけではないのですが、3 地域によらず、ものによってはもう少し細かく地区別に見ていただけたらありがたいと思いました。

○議長 ありがとうございます。多分、この子育て世代向けアンケートに関して言うと、中山間地域などが非常に少なくなったといったところもあると思いますけれども、とはいえ、おっしゃるとおり、地域の偏りの中で分析していくということが重要だと思いますので、少しその辺りの分析も、分析の意義を見ながらしていただければと思います。

○事務局 今日は特に全体論の議論だと思いますので、次回、地域別構想などの段階で改めてクロス集計の結果などもお示しできればと思っています。

○委員 やっていくということですね。分かりました。ありがとうございます。

○議長 その他、いかがでしょうか。

○委員 教えてください。共起ネットワーク分析をしていただいていますけれども、これは、発現する文字数というか単語数が大きければ丸が大きくなるということは分かりますし、こういうつながりがあるというものを線で結ばれているのは分かるのですけれども、関係性の強さが線の太さで見えてくるのが共起ネットワーク分析だと思うのです。その辺りの太さは全部一律のように感じるのですが、どれとどれが強いという、そこまではなかなか分析は難しいですか。

○事務局　今のところ、実線と点線くらいの関係性の違いしか見えていません。

○委員　では、この部分はあまり差がないというか、一部点線があるのですね。

○事務局　そうです。点線があるので、そこは相対的には弱い結び付きということです。

○委員　分かりました。では、実線と点線で表現しているのですね。

○事務局　そのくらいで関係性を見ていただくくらいの参考になるのではないかと。

○委員　分かりました。ずば抜けてこの部分の関係性が強かったといったところは、あまり見られなかったということですか。

○事務局　はい、そうです。

○委員　分かりました。ありがとうございます。

○議長　今の整理は、実線でつながるものを1つのグループとして色分けしていただいているというイメージですね。

その他、いかがでしょうか。いったん、よろしいですか。

では、私から。今の属性別というところに関して、若者向けのアンケートに関して言うと、高校生が40%というのは、やはり学校で情報を得ると、高校生は真面目だから皆さん答えてくれるのかどうか分からないですが、高校生と高校生以上、大学生では全くライフスタイルが違うところもあるかと思しますので、ぜひその辺りも、高校生の意見と高校生以外の意見というところを分けた分析を、ぜひやっていただきたいと思います。

よろしいですか。質問とか見方とかに関していただいて、その辺りの読み解き方に関しては、このあとのところでまたそれに触れながらという感じでもいいかと思います。では、アンケートに関してはいったんここまでにして、後半にしっかり時間を取れるように、先に進めたいと思います。

（３）学生と市長との意見交換会の報告について

○議長　では、次の議事の（３）「学生と市長との意見交換会の報告について」のご説明を事務局よりお願いします。

○事務局　資料6「学生と市長との意見交換会の報告について」をご覧ください。

まず左上、この会の概要ですが、「目的」のところに記載していますとおり、次期長野市総合計画の策定にあたって、市長と学生で意見交換して、総合計画の改定に役立てるというものになります。ただ、総合計画と都市マスについては非常に相関性の高い計画ですので、右上のテーマ設定は「未来のわたしと未来のまち」ということで、調整の結果、都市マスの時間軸の将来（10年後）というわけにはいかなかったのですが、都市マスも総合計画も10年ごとに改定していくので、10年後を想像して、どんな自分になっていきたいか、どんなまちに住んでいきたいかというテーマで、ざっくばらんに意見交換してもらおうというものです。参加者は、長野市と連携協定を締結する高等教育機関の学生15名、それぞれの学校から代表

者の方が参加していただいて、市長と懇談していただいたという形になります。

意見交換会の内容としては、大きく4段構成になっています。まず、市長が挨拶して、アイスブレイクの時間があって、ファシリテーターの人が卓を回すという形です。それから、意見交換があって、最後、市長から振り返りコメントがあったという感じの流れになっています。写真を見ていただくと、左側の写真は、ここは清泉大学なのですが、階段の所に学生さんに座っていただいて、左から2番目の写真を見ていただくと、市長も一緒に輪の中に入って意見交換をするような感じで、非常に和やかな空気の中、進んでいったと思います。

皆様にご報告したいこととしては、3の「意見交換」の内容になります。ここで都市マスに関係してくるようなこととして大きく3点、サードプレイスや居場所についてのこと、2つ目に、コミュニティの維持とか、人と関わるのは大切だということ、3つ目に移動手段のこと、この辺りが都市マスの中でも関連してくることはないかという話が出ていました。それについては太字で記載しておりますので、詳しくはご一読いただければと思います。ここに書いてあることは、あえて取捨選択せずに、当日話のあったことを一通り記載していますので、お時間がある時にご覧いただければと思います。

駆け足ですが、要点としては以上になります。

○議長 ありがとうございます。先ほどの市民アンケートや若者のアンケートとも共通するところもあろうかと思いますが、この件についてご質問等ございますか。

○委員 本題からそれるかもしれませんが、空飛ぶ車に関する研究がありますが、これは長野県で進んでいるという話を伺ったことがあるのですが、長野市でも進めていらっしゃるのですか。

○事務局 ご存じのとおり、長野県では、今、知事をはじめ進めているところで、長野市に関しては、窓口がイノベーション推進課という、起業や新しいイノベーションなどを一緒にやっという課なのですけれども、そこが市の窓口となって、一応、県と連携体制はとっています。ただ、市として個別に何か、県をリードしているところまではいっていません。

○委員 今まで、点と点を線で結んでいたのが、通過コースになるような都市も発達してきたのが、点と点で結んでしまうと間の都市を全く通過しなくなってしまっていて、そういう間の都市が死んでいく可能性があります。長野市は逆にその点の部分になってくるかもしれないですが、その辺りの危険性があるので、今後進める際にはぜひ慎重にやっていただきたいと思います。皆さん、そう思っらっしゃると思います。

○事務局 分かりました。ありがとうございます。

○委員 今回のこの意見交換会というわけではないのですが、今回集まっていた15名の学生さんは、まちづくりに関する意識の高い学生たちが集まってきたのではないかと思います。せっかくこのように集まっていいただいて、ご意見もいただいて、これで終わりというのが、少しもったいないという気がしています。こういう方々に、改めて

今回我々が考えている素案などをご覧いただきながら、「君たちが描いた 10 年後、この計画でこの案で本当にできそうですか。何か足りないところはありませんか」というようなところを聞ける機会があると、もっといいと思うのですが、その辺りはいかかですか。

○事務局 委員がおっしゃったイメージとしては、多分、素案を作ったあとで意見収集して、ブラッシュアップをするようなタイミングはないのかと認識したのですが、その辺りに関しては、また今日の後半でお話ししたいと思いますけれども、パブコメに加えて、同じような聞き方をしても仕方がないので、できるだけ広い聞き方、広い手段を使うことで、できるだけ広い方に意見を聞きたいと私たちも思っているのです、その辺りは今後検討したいと思います。

○委員 分かりました。よろしくお願いします。

○議長 これは総合計画の過程でのディスカッションということだと思えるのですが、総合計画の策定のプロセスの中でもう一度やりとりする予定などはあるのでしょうか。

○事務局 私もそれが気になって企画課に聞いたのですが、今のところ、今回は一度きりという話でした。

○議長 やりっぱなしはよくないと思いますが、総合計画の流れの中で都市マスの議論もということでもいいかもしれませんので、学生のためにも全庁的にぜひ検討いただければと思います。

先ほどの委員からのご指摘も、とても大事だと思いました。空飛ぶ車もそうですし、自動運転もそうですけれども、そういうものがどこまで普及するかによって交通の問題もだいぶ変わってきます。なので、今回のマスタープランの中に具体的に入れ込むのは時期尚早という気がする一方で、全く触れないのも違う気もするので、その辺りの扱いについては、また今後の議論の中で検討させていただければと思います。

この意見交換について、その他何かございますか。よろしいですか。

では、この議事についてはここまでとさせていただいて、いよいよ中身の話に移りたいと思います。

(4) 都市づくりの理念・目標及び分野別方針の改定の方向性について

①都市づくりの現況と課題

②都市づくりの理念・目標（たたき台）

○議長 議事（４）「都市づくりの理念・目標及び分野別方針の改定の方向性について」ということで、まずは「①都市づくりの現況と課題」のご説明をよろしくお願いします。

○事務局 資料 7、8、9 を使ってお話しさせていただきたいと思います。まず、資料 7 の 1 ページ目をご覧ください。資料名は「前回改定からの変化点について」と書いてあるのですが、今回、10 年ごとの改定ということで、要は見直しになるので、前回の改定から市

政の状況として変化した部分であるとか、関心が高まっているとか、必要性が高まっているとか、そういう変化点がどこにあるかというところに主眼を置いて改定いく必要があるという観点から、今回の話を進めていきたいと思います。

1 ページにお示ししているのが、平成 29 年の現行計画の都市マスの目次です。皆さん、もうご存じのとおりだと思うのですが、第 1 編から第 4 編までの構成になっていて、第 1 編では、マスタープランとは何かとか、長野市の市勢はこうだとか、現状や課題はこういうことがあるということを整理した上で、第 2 編で都市づくりの理念と目標を掲げて、それを実現していくためにどういう都市構造をつくっていききたいか。それに向けてそれぞれの土地利用や、道路・交通施設、防災などのそれぞれの分野でどういうことをしていくかという方針が書かれております。第 3 編では、この時は 12 地域に分けているのですが、地域ごとにどういったことをしていくか。第 4 編に、具体的にどういった事業を推進していくかということが書かれています。大きくこのような構成になっております。今回の部会では、都市づくりの理念と目標の改定の方向性についてご議論いただきたいので、今回、黄色に着色したところにポイントを置いてお話をしていきたいと思います。具体的には、現在の現況と、都市づくりの課題、都市づくりの理念・目標、都市構造に関することになります。

それでは、めくっていただきまして、2 ページです。こちらの表ですが、今日、事前に冊子をお持ちくださいとリマインドさせていただいているので、もしお持ちであれば、それと見くらべていただきながら話を聞いていただければと思います。こちらの表は、第 1 編の第 3 章の「現況と都市づくりの課題」が左の列に書いてあって、それと対応させるように、「都市づくりの課題に対する視点」、これについては必ずしも現況と課題が 1 対 1 対応するわけではないのですが、主に相関性が強いところを横並びに並べている形になります。それから、

(1) や丸囲み番号などが書いてありますが、こちらは、今の現行計画の(1)や丸囲み番号の数字になっております。

ここで、資料 8 も並べながらお話を聞いていただければと思うのですが、資料 8 は「都市づくりの現況と課題」ということで、現況の部分は資料 7 の左の列、課題の部分は資料 7 の右の列と対応させながら、資料を作っております。資料 7 の(1)「人口減少・高齢化と市街地の拡大」の中に、「①長野市の人口」とありますが、それが資料 8 の 4 ページに、(1)－①として書いてあります。それから、表の見方として、資料 7 で青いマーカーが引いてあるものが改善や緩和していること。黄色のマーカーが引いてあるものが、残念ながら悪化している、あるいは関心が高まっていること。ピンクの四角は、市民意識調査でアンケートの結果と絡めて考えていきたいことという色分けになっております。

では、順番に見ていきたいと思います。(1)の「①長野市の人口」についてです。資料 8 の 4 ページをご覧ください。人口の変化を見ますと、緑の線が、今年の 4 月に改定した人口ビジョンの目標値です。青い線が、令和 2 年以降に関しては令和 5 年時点の社人研の推計です。黄色い線は、平成 25 年時点での社人研の推計です。これを見ても、社人研の推計は

平成 25 年の推計値に比較すると緩やかな人口減少の幅になっていて、前回の改定時よりは
いくらか緩和傾向にあるということが分かると思います。それから、総合計画に合わせて人
口ビジョンというものを作って、2060 年に人口 30 万人を確保するということが長野市の大
きな目標になっています。都市マスはこれらの下位計画になるので、それを実現するために、
では都市計画の分野からどういうことができるかということも、都市マスの中で考えること
の 1 つではないかと思っております。

資料 8 の 5 ページ、「人口の分布」です。この出典になっているのが、前回の部会でもご紹
介した地区別カルテです。正式には長野市の地区基本情報と言われるものですが、これらも
活用していきたいというお話をしたかと思います。そこから引っ張ってきたものなのですが、
平成 27 年から令和 6 年の 10 年間の変化という意味で、人口分布の地区別の変化になってお
ります。青は人口・世帯が増加した所。橙色は世帯数増加地区で、人口は減っていて世帯数
が増えている所です。濃い橙色は、10 年前は増えていた所がこの 10 年間でピークを過ぎて
減少し始めているという所になります。薄い橙色（世帯数増加地区）は、10 年間の傾向は変
わらないのですが、人口減・世帯数増という所になります。薄い赤は世帯数減少地区で、人
口も世帯数も減っている地区になります。赤い所は老年人口減少地区ということで、人口・
世帯数も減っているのですが、併せて老年人口ですらも減ってきているという地区になりま
す。ご覧のとおり、中心の第五地区や芹田では増加傾向があって、市街地が昭和の時代に広
がった犀川の南側といった所は、10 年前は人口が増えていたのが、この 10 年間で減ってい
ます。中山間地域に関しては、残念ながら老年人口ですらも減少傾向にあるという形になっ
ております。

めくっていただきまして、6 ページの「市街地の郊外拡散」です。DID の区域の変化を示し
た図になっております。ご覧いただけるように、DID が広がっていて、一方で、長野市の人口
自体は減ってきているので、DID ではあるのですが低密度化した市街地が徐々に広がってき
ているということが分かると思います。

8 ページに進んでいただきたいのですが、今回、新しい観点として、資料 7 の表にも記載
しているのですが、「産業の状況」ということで、これは 1 つの変化の部分に新しい視点とし
て必要になってくるものと思います。具体的には資料 8 の 8 ページに、本市の産業用地の分
譲状況を記載しているのですが、表の右下の合計欄を見ていただくと、現状では供給可能な
産業用地はほとんどないという現状もございまして、9 ページのように、現在、長野市では
「産業立地ビジョン」というものを策定しまして、市内で 8 つのエリアを候補地として挙げ
ております。また、企業立地に関しての引き合い状況ですが、各企業に調査したところ、3
割以上から長野市内の新規立地について前向きな回答があったということで、この辺りも各
種分野と整合も図っていききたいと思っております。

めくっていただきまして、「人口減少下における都市のストック」でございまして。

11 ページをご覧ください。長野市は平成 17 年と 22 年に周辺の町村と合併しまして、それ

まで旧町村が保有していた公共施設も引き継いでいるということもありまして、今後 30 年間で維持管理費が最近 3 年間に比べて 3.6 倍になることが見込まれております。そういった現状もあるということでございます。

めくっていただきまして、こちらはコラムという形で、直接長野市のことではないのですが、皆さんご存じのとおり、埼玉県八潮市のような事故もありました。長野市においても必ずしも起こらないと言い切ることはできないと思いますので、こういったこともトレンドとして必要な観点ではないかと考えております。

13 ページをご覧ください。「空き地・空き家の増加」ということで、平成 27 年から令和 6 年の約 10 年間の変化を増加率で示しております。白い所が市域の全体の平均の 8.16%で、そこから青が濃くなるほど増加率が少なく、赤が濃くなるほど増加率が多くなります。これで見ると、一番濃い赤が、更北、川中島地区という所で、恐らくですが、比較的新しい住宅が多いということで増加率が少ないのではないかと思います。一方で、中山間地においては 10%以上の増加率になっていることが分かります。

めくっていただきまして、「自動車依存の交通の現状」でございます。こちらは市民意識調査の変化の部分なのですが、平成 27 年時点で自家用車をお持ちの方が 94%で、今回の調査でも 97%近くということで、依然として自家用車の高い割合が続いているということが分かります。

めくっていただきまして、これは参考として載せているのですが、長野市ではこういった昨今の状況により、路線バスの廃止や代替路線の運行などの話もある中で、公共交通の維持としては非常に厳しい状態にあると思います。

17 ページです。「人口の集積と公共交通の状況」ということで、左側は人口密度、右側は平成 22 年から令和 2 年までの 10 年間の人口密度の増減を表しています。これは中山間地域がということではなくて、市街化区域においても同様の傾向だと思うのですが、顕著なところでこれをお示ししています。中山間地域はただでさえ人口密度が低く、1 ha 当たり 20 人以下だったのですが、右側の人口密度の増減を見ると、20 人以下であるのに 10 年前と比べて減っているので、公共交通として当然利用者が少ない状況にあるので、維持が難しくなっているという現状もあるかと思います。

めくっていただきまして、18 ページをご覧ください。こちらについても新しい観点として必要になってくるかと思います。自転車利用の観点です。市民意識調査の中の若者アンケートの結果が、これは聞いている方が高校生が多いので当然なのかもしれませんが、自転車利用が週 3 回の方が 40%以上いて、満足度も 20%あるということで、今後、脱炭素とか環境を考えると、自転車利用というのは今後追加していくべき新たな観点なのではないかと考えております。

めくっていただきまして、(3)「環境・エネルギーの現状」です。

20 ページは緑被率の状況でございます。左側は都市計画区域で、右側は市街化区域です。

都市計画区域に関しては6割くらいが緑被がある、市街化区域に関してはおよそ2割くらい緑被率があるということですが、中心市街地に限って言うと、緑被率は7%となっています。この割合は、善光寺や城山公園一帯も含まれていて7%なので、それを除くとさらに低い緑被率というのが、1つ、特色としてあるかと思います。

(4)「特徴的な景観や豊富な都市資源の存在」です。こちらでも現行計画を見ると、市街地の景観や良好な自然景観という項目はあるのですが、歴史的風致の維持向上という点では今の計画になって、一方で、長野市は善光寺をはじめ、戸隠、松代、若穂川田、鬼無里といった豊富な地域資源があるので、そういったものを観点として入れていく必要があるのではないかと考えております。

(5)「安全・安心確保の必要性」です。24ページをご覧ください。皆さんご存じのとおり、令和元年に東日本台風災害がありました。写真は長沼や豊野の様子なのですが、ここだけではなく、松代や若穂、篠ノ井でも浸水被害がございました。こういった激甚化する災害にも対応していかなければいけないという視点はもちろんあると思います。

その上で、25ページ、「災害リスクのある区域の人口推移」です。平成22年と令和2年の人口の増減を比較した表になります。これはL2の想定最大規模降雨に対してですが、市街化区域において平成22年に比べて令和2年で人口が増えている。特にランク1～4に関して増えているという現状があります。

加えて、26ページですが、「災害リスクのある区域の開発等」の状況です。新築の建物と開発許可の関係、それから農地転用の関係と3つございまして、それぞれ長野市の全体の件数と増減率、それから、市街化区域、浸水想定区域、土砂災害警戒区域のそれぞれで比較して、件数を青いバー、増減率を橙色の点で表示しています。これを見ると、真ん中の「開発許可」や右側の「農地転用」の中でも、浸水想定区域内や土砂災害警戒区域内で増加率として市街化区域や長野市全体を上回る開発の数があるということで、災害リスクが増大している可能性もあると考えております。

以上が、資料7の左側の課題の中でもこの10年間で変化点として捉えたいところの話でした。

ここからは、「都市づくりの課題」です。資料7の表の右側の列の中でも特に変化している点を挙げてございます。

資料8の28ページをご覧ください。課題(1)「人口減少・少子高齢社会に対応した土地利用、都市構造に関する課題」です。(1)－①「子育てしやすい住環境」ということで、先ほどお話しした人口ビジョンの目標、2060年に30万人の人口を達成するには、合計特殊出生率を2050年時点で2.07に引き上げることが必要になってきます。そうすると、お子さんを2人ではなく3人以上持って育てる環境づくりというのはだいぶハードルが高いと思うのですが、観点として必要になってくるのではないかと思います。

併せて、30ページ、「子育てしやすい住環境」というところをご覧ください。市民アンケート

トの中でも、将来の持続・発展に向けて、長野市はどのようなまちづくりに力を入れていくべきだと思いますか」という大きな設問に関しても、子育てしやすいまちづくりが求められているという回答が最も多くなっております。

31 ページは、話題が変わりまして、「公共交通を利用しやすい都市づくり」です。こちらは国交省の立適の手引きから持ってきているものです。グラフの横軸が人口密度別の小地域の合計面積、縦軸が人口密度別の小地域のうち公共交通圏域と重なる部分の面積の合計という、少し分かりづらい図になっているのですが、ここで言いたいこととしては、人口密度の高い地域のほうが、低い地域より公共交通の利用圏域が多くなる傾向があるということが分かると思います。ですから、公共交通利用圏域の人口を維持し、できれば増やすとか、誘導していくという観点は当然ながら必要と考えております。

併せて、32 ページをご覧くださいなのですが、市民意識調査の中の市民アンケートで、主に長野市全体の移動手段について聞くような設問でも、公共交通の中でも特にバスに対する市民の要望が大きいということが分かると思います。

33 ページをご覧ください。「新たな居住者や訪問者の増加（居住誘導）」に関して、今、「長野市移住者空き家改修等補助金」というものがあって、空き家バンクを購入されて移住してきた方に補助金を出す制度があるのですが、この限度額が市街化区域は 50 万円で、それ以外の区域は 100 万円となっています。ここについては、都市計画の考え方とは矛盾するところがあると思いますので、この辺りについては今後連携も含めて少し検討していく必要があると思います。例えば、「上記以外の区域」のうちに生活中心地があるので、「上記以外の区域」を「生活中心地」とさらに「それ以外」と分けて、補助金のグラデーションをつけるなど、いろいろなやり方があると思うのですが、この辺りについては内部でもいろいろ調整していく必要があると思っています。

34 ページをご覧ください。「生活の核となる機能の集積」というところで、こちらも他分野との連携となっていますが、例として、各拠点以外に公的な施設、図にお示ししているのは市営住宅や県営住宅が立地しています。これは都市政策とは少し相反するものもあるので、その辺りもできればほかの分野と連携して公的施設を拠点圏域内に誘導していくといった視点も必要になってくるのではないかと考えております。

35 ページ、(2)「長野らしさを活かした都市づくりの課題」です。36 ページは、市民意識調査の中の市民アンケートの結果を抜粋したものです。「将来の持続・発展に向けて、長野市はどのようなまちづくりに力を入れていくべきだと思いますか」という設問に対して、「地域固有の歴史・文化、景観を活かしたまちづくり」の回答率が約 3 割になっております。現行の都市マスでもこういったことは大切だとうたって施策を打っている中で、実際の回答はやや乖離があるというのが現状だと思います。

課題(4)「防災都市づくりに関する課題」です。38 ページをご覧ください。こちらは、浸水想定区域です。100 分の 1 確率の浸水想定区域図なのですが、左側が現況、右側は中長期

で河川整備をしたあとの水害ハザードを示したものです。これで見ると、100 分の 1 確率では、現行の河川整備をしてもなお、左下から塩崎の辺りや篠ノ井、水沢上庭、大豆島、柳原の辺りでは、市街化区域の中でもリスクが残ってしまう場所があるというのが本市の 1 つの特徴ではないかと思います。主に立適の話になるのかもしれませんが、こういったところの位置づけや居住誘導をどのように考えていくかということも、1 つの課題ではないかと思っております。資料 8 の説明は以上です。

資料 7 に戻っていただきまして、1 枚めくっていただいて、3 ページをご覧ください。このページは、現行計画の第 2 編の「全体都市づくり構想」について、要点をまとめたものです。黒字の箇所に関しては、現行計画にあるものを基本的にはそのまま項目出ししている形になります。赤字については、現時点で 10 年前から関連計画が改定されていて、その中でも都市マスに反映していくべきだと考えている場所を赤字で記載しております。ここでは、現行の計画でも都市づくりの理念と目標を掲げまして、第 2 章の「将来の都市構造」のところで目指すべき都市構造を考えています。

ここで資料 9 をご覧いただきたいのですが、現行計画に位置づけている拠点圏域の現状として、どうなっているのかということ把握したものが資料 9 です。1 ページめくっていただきまして、2 ページ目をご覧ください。まず、評価で着目する場所としては、現行の都市マスが示す都市構造図の中で各種拠点、広域拠点、地域拠点、生活拠点、生活中心地とありますが、これらの拠点について評価しております。皆さん、現行の都市マスはお持ちでしょうか。お持ちであれば 33 ページを開いていただきたいのですが、これらの拠点がどういうものかということが 33 ページから 39 ページにかけて書いてあります。具体的には 34 ページの表をご覧いただきたいのですが、広域拠点というのは、具体的には長野駅前から善光寺にかけてのエリア、地域拠点というのは北長野駅周辺と篠ノ井駅周辺、松代地区と定めております。生活拠点というのは鉄道駅であったり、更北、若穂といった支所の圏域を生活拠点に位置づけています。生活中心地というのは、都市計画区域外や市街化調整区域の拠点になるような所を生活中心地という名前で位置づけております。今回の把握では、拠点圏域の区域（800m 圏域）と 10 分圏内の、旧駅を含む鉄道駅、支所、現行計画に位置づけたものについて、人口や拠点を維持するために必要な施設の分布がどのようになっているかという視点で評価をしております。

資料 9 の 3 ページをご覧ください。評価で着目した視点としては、右の表にございますとおり、「人口」と「拠点を維持するために必要な施設」として、この表に記載してあるような施設について、平成 27 年から令和 7 年の 10 年間の分布数や人口密度の変化について把握しております。その結果について、まず、「人口」については、見開き 4 ページ、5 ページで、コメント表とセットになっております。コメントのところを読ませていただきます。人口の推移で言うと、平成 27 年から令和 6 年にかけて、拠点圏域の人口は、拠点圏域外ともに減少傾向にある中で、広域拠点の長野地区中心市街地、長野駅 800m 圏、及び、生活拠点の朝陽駅

800m圏、大豆島支所 800m圏、更北支所 800m圏が増加している。生活拠点の残る圏域と、全ての生活中心地の圏域は減少傾向を示している。市内全域は、減少傾向にある。以上が人口の推移に関する考察です。次に、「人口密度の推移」についてですが、市街化区域内の広域拠点、地域拠点、生活拠点の圏域の人口密度は、令和 6 年で、長野地区中心市街地、長野駅 800m圏域、及び、生活拠点の篠ノ井駅 800m圏域、北長野駅 800m圏域、朝陽駅 800m圏域のみで 40 人/ha 以上を維持しています。このうち、長野駅 800m圏は、唯一、平成 27 年から令和 6 年に 40 人/ha 未満から 40 人/ha 以上に増加しています。長野市全体が人口減少している中ではありますが、人口密度が拠点圏域外の低下量より、より減少している拠点が過半数を占めております。これには地域拠点に位置づけた篠ノ井駅、旧松代駅、北長野駅も含まれており、人口集積の面からは拠点性が低下している傾向にあることが分かります。

次に、資料 9 の 6 ページ、7 ページをご覧ください。拠点を維持するために必要な施設の分布について集計しております。「①拠点圏域別の各種施設数の推移」については、平成 27 年から令和 7 年にかけて、拠点圏域別の推移を見ると、多くの拠点圏域で増加する施設と減少する施設が入り混じった状況ではあるのですが、長野駅 800m圏域では、市全体の数が増加している施設のほとんどがこの圏域でも増加傾向が見られます。一方、安茂里駅周辺、旧綿内駅周辺、小田切支所周辺では増加した施設がないという結果になっています。「②施設別の各種施設数の推移」に目を向けると、平成 27 年から令和 7 年にかけては、市町村役場、郵便局、大型小売店の中でも食料品を扱っている店舗などは、市全体の数、拠点圏域ごとの数ともに小幅な増減に収まっています。高齢者・障がい者等の福祉施設については、市全体の数が大きく減少しており、ほとんどの拠点圏域で立地数も減少しています。それから、先ほどの話と重複するのですが、国・都道府県の機関については、市全体の数が大きく増加しており、対象は広域拠点や地域拠点などに限られますが、全ての拠点圏域で立地数が増加しています。今後も、増加が続く場合や、建替え等による立地場所の変更が行われる場合は、国や県の施設を拠点区域内に誘導することも検討や調整していく必要があると思っております。最後に、医療機関、大型小売店の中でもホームスーパーのようなものに関しては、立地数が減少する拠点圏域が多い中、拠点圏域外で増加していることから、適切な立地の誘導も必要と考えております。

長くなりましたが、資料 7、8、9 の説明は以上です。

○議長 ありがとうございます。予定ではあと 30 分くらいなので、最後まで説明をしていただいてからディスカッションをしたほうがいいのではないかと思います。よろしいですか。この点に関しては、多分いろいろ質問があるかと思うのですが、それも併せて最後に皆さんからコメントをいただく時間を取りたいと思います。では、そのまま連続して、「②都市づくりの理念・目標（たたき台）」の説明をお願いいたします。

○事務局 話が長くなってしまってすみません。資料 10、本日の本題の、「都市づくりの理念・目標（たたき台）」です。事務局のほうで考えたものがございますので、これについ

てご意見をいただいたり、あるいは、こういう観点があるのではないかということをお教えしていただきたいと思います。

2 ページは、今回の改定のポイントです。問題意識として2つ持っております。1つが、社会情勢の変化です。これについては、都市構造であったり、分野別にどうしていくのかというところで対応していきたいと思っております。そして、少し観点が異なるのですが、現行計画の分かりにくさ（煩雑さ）と書いたのですが、都市マスを作る意味として、作った人だけが分かっているわけではなくて、行政の中、あるいは、それだけではなくて市民の方が見ても分かりやすいという視点が大切だと思います。この辺りも、今回の改定では心掛けて、観点として持っていきたいと思っております。

3 ページをご覧ください。「社会経済情勢の変化と改定のねらい」です。災害リスクの増大や公共交通維持への不安、人口減少をはじめ様々なことに起因する活力の低下など、社会情勢が変化している中で、改定の狙いとしては、将来においても持続可能な都市づくりをしていくということが、1つの大きな観点になると思っております。

それを踏まえまして、4 ページですが、「改定の視点と方向性（都市構造）」です。視点としては、都市構造について、どうしていきたいかという方向性については、これまで目指してきた都市構造を継承していきたいと思っております。その理由としては、このあとお示しする「都市づくりの理念・目標（たたき台）」とまず整合するということ。それから、目指す都市構造は、長い時間軸の中で継続的で一貫性のあるものが望ましいこと。それから、現行都市マスが掲げる都市構造は公共交通を利用しやすい拠点性を高めることを目指しており、市が目指す方向性と合致するということ。以上のことから、都市構造については継承していきたいと思っております。

5 ページをご覧ください。ただ、一方で、全体の人口が減っている中で、持続可能な都市をつくっていくためには、視点として拠点の維持・強化と、方向性として人口や都市機能の維持、これは都市計画区域外も含めてですが、考えていく必要があると思っております。どういうことかというイメージ図を横にお示ししているのですが、「街」のエリア、「里」のエリア、「山」のエリアとあって、土地ではグラデーションになっていて、黄色に着色してあるところをご覧くださいなのですが、これが将来の人口や都市機能の変化のイメージで、上にいくと増加、下にいくと減少ですが、残念ながら全体が減ってしまっている中で、全てを今の密度で保っていくというのは難しいと思っております。そう考えると、やはり拠点となるような所では少なくとも減少ではなく維持していく。あるいは、長野駅前のような広域拠点においては、人口密度や都市機能をさらに増加させていく必要があるということは、1つの考え方としてあるのではないかと思います。

6 ページをご覧ください。先ほどの、「将来においても持続可能な都市づくりの実現」という狙いを達成するために、改定の視点として大きく3つ、「災害リスクの回避・軽減への対応」、「移動手段の確保への対応」、「都市活力の維持・向上」といった視点を持って改定していく

必要があると思います。そのためには、右のピンク色の中に記載しているような方向性で進めていきたいと思っております。

7ページをご覧ください。今度はまた話が少し変わりますが、先ほどの現行計画の煩雑さとか分かりにくさといったところで、現行の計画は理念が3つあって、目標が3つあって、これがたくさんの矢印で結ばれています。連携していくとか、親和性が高いという表れだとは思いますが、この辺りも含めて、もう少しシンプルな分かりやすい作りにしたいと思っております。

ここまでが前提条件の話で、最後に結論の部分ですが、8ページ、9ページをご覧ください。都市づくりの理念のたたき台としまして、8ページの一番下を書いてあるように、「長野の魅力を高めながら将来も持続可能な都市の実現」を理念に据えたいと思っております。その理由としては、第5次長野市総合計画の、基本構想という、市議会の議決をいただいている部分の中に「まちづくりの方針」という、一番大きな部分になるのですが、こちらが3本柱としてあって、この第5次計画というのは現行計画なので、平成29年から令和8年にかけての計画で、第6次については、今まさにこの部分を都市マスと同時並行で作っているのですが、こちらについては、やはり根幹をなして、かつ、大きな部分なので、第6次の次期計画でも基本的には継承していくということがあります。なので、これに整合するような形で、かつ、都市計画の視点として災害リスクを回避・軽減するまちづくりとか、長野市らしさとして歴史・文化を活かしたまちづくりというような、都市計画からの視点も合わせて、この理念を設定しております。

最後、9ページです。「都市づくりの目標」のたたき台としまして、今申し上げました理念に基づいて3つの目標、具体的には「人口減少下でも持続可能な都市づくり」、「自然・歴史・文化を活かした特徴のある都市づくり」、「災害に強く安全・安心な都市づくり」という3本柱を作りまして、それに各分野を対応させていくという形で、都市づくりの理念、そして目標を事務局案としてお示ししたいと思います。

本日は、今後の改定に向けて、そのほかの観点や、こんな見方もあるのではないかとといったところも含めて、ご意見をいただければと思います。次回の部会で具体的にこの部分に関する計画案の文章のたたき台をお示ししたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長　ご説明ありがとうございます。2つまとめて議論することになってしまいましたけれども、今回、どういう観点でどういうところに注目して見直しを行っていくのかというところのポイントをまずはしっかり定めるということと、次回、文案を作っていただけるということです。それに向けて、ぜひこういう文言なり視点でまとめていただきたいというところについてコメントをいただければと思います。

どこからでもと言いたいところなわけですが、お一人ずつ、ここまでの整理、データの読み解きなども含めて、最終的にはこの理念・目標にどう書き込んでいくかというところ

になりますので、その点に関わるコメントをぜひお一人ずついただければと思います。委員から順にコメントをいただいて、もし時間が許せば追加でという形でできればと思います。

○委員 細かいところも含めて3点あります。

資料10で説明すると、1点目は、5ページ目に拠点の話が出ているのですが、資料9などでも各拠点がきちんと整理されていることは非常に良いと思ったのですが、例えばドイツなどでは、拠点の数は人口減少に応じて減らすということで、全国の拠点を半分くらいに減らした事例が結構ありますけれども、長野市においても幾つかの拠点を拠点設定の中から外す、もしくは、上のほうの上位拠点を少し下の拠点に落とすようなことも検討されていくのでしょうか。

○事務局 それについては、非常に政策的なところもあるので……

○事務局 ご存じのとおり、長野市はこれまでに合併の経緯がいろいろございます。もともと最初から長野市ではなかった所もあって、地区とするとやはり拠点であるとか、そういったものを維持したいという地域の希望もあると思いますので、基本的には減らすとか落とすということについては、あまり考えていません。

○委員 やはり全国的に、旧行政の所は拠点が残るのですが、やはりどうしても衰退して、もう維持が困難な所も全国に多数あって、取捨選択で厳選しているような地域もあるので、今回もいろいろと吟味してくださったと思うので、その結果によってはある程度厳選していただかないと、今後、人口の奪い合いもそうですし、公共投資の維持としてもそうですけれども、持続可能性が低くなってしまうので、地域住民もかなり難しいと思うのですが、もし可能であれば、客観的なデータから厳選の検討をしていただけたら、時間等の都合になりますが、最良かなというのが1点目です。

2点目は、6ページ目のところで、災害リスクの軽減という話をされていて、資料8の26ページなどでも、開発許可が結構増えてしまっているという話だと思うのですが、この「土地利用の検討」というところは、土地利用規制を行っていくことをきちんとやろう、もう今のような開発許可は行わないように仕組みから変えようということは、ここのできるのでしょうか。

○事務局 資料10の6ページの、「被害対象を減らす（少なくとも増やさない）土地利用の検討」というところで言うと、最終的には土地利用規制の厳格化のような話に行き着くのかもしれないですが、まずはその前段というか、そこまでではなくて、例えば居住誘導区域をどうしていくのかとか、少なくとも災害のハザードがある所が危ないということをお伝えしたりとか……

○委員 お伝えするのは土地利用の検討ではないですし、居住誘導区域の設定から外すという案の1つなのではと思うけれども、もう少し踏み込まないと、結局、今までどおりなあなあで増加してしまうという状態で、ここも難しいかと思うのですが、もし踏み込めるのであればそういったところまでぜひ踏み込んでいただきたいというのが2点目です。

3点目は、非常に細かい点なのですが、最後の9ページ目の「人口減少下」の「下」の字が間違っているのを直していただければと思います。

○議長 非常に重要なポイントをご指摘いただいて、ありがとうございます。

では、続いてお願いします。

○委員 まず確認ですが、資料9で、拠点圏域の現況について整理していただいているのですが、生活拠点について、私の勉強不足の点もあって申し訳ないのですが、拠点と地区のマップを見ると、大豆島などは生活拠点に入っているのですか。

○事務局 現行計画では、大豆島については拠点に位置づけては 아닙니다。この都市構造図の中では位置づけてはいないのですが、ただ、実情として大豆島地区も1つの拠点として、支所を中心とした土地利用はなされているので、今回はプラスアルファの部分で評価をしている形にしています。

○委員 分かりました。生活拠点相当というふうにみなしているということですね。

○事務局 はい。少なくとも、この今ある現行計画の拠点にそれも含めて評価するのですけれども、それだけではなくてというところのプラスアルファの部分で集計しました。

○委員 分かりました。ありがとうございます。なぜそんなことを聞いたかという、そもそも生活拠点から今回は800mで線を引かれていると思うのですけれども、その800mの範囲内に、もう既に立適の居住誘導から外れている所があると思うのです。そこを、今回、そこを差し引いたところの部分、要するに居住誘導の所だけで見ているのか、それとも、800mの所全部で見ているのかということが、まず確認したいところです。ここの、圏域の人口を増やしていくという考えと、居住誘導から外れてしまっている所は、ではその圏域の人口を増やすためにはそこにも人を増やさなければいけないという話になってしまうと思うのです。なので、そのミスマッチを今後どのように考えていくのかというところが、少し気になりました。

それから、資料10の9ページで、今回新たに企業立地を項目として加えようというご説明があったのですが、現実的に、今後は、大規模な企業立地というよりは、今は、データセンターやスタートアップというような取り組みに関する言及があつてしかるべきではないかと思っています。要は、まちなかで働く人を増やしていくという視点が重要だと思うので、産業立地のみならず、どのようにすれば新しい産業を市内で促進することができるのかというところの、現状の分析と、今後どのように伸ばしていくのかという観点も必要ではないかと思いました。

3つ目は、公共交通を利用しやすい都市づくりということで、公共交通を利用しやすいというのはどういうことかというところで、よく分析されるのが、カバー率で見る人が多いのですが、今回、カバーされていても満足度が低いという結果がアンケート調査から出ています。要は、カバーはされていても、1日に2本しか来ないようなバスは使えないということが、まさに今回、評価として出てきていると思いますので、そのカバー率の考

え方はもう古いのではないかと考えています。カバー率と併せて、その質というものを丁寧に見ていかなければいけないと考えています。なので、その辺りの考え方も重要だと思いました。

4つ目として、なかなか難しいポイントだと思うのですが、今後、まちをコンパクトにしていかなければいけないという視点の中では、誘導と、切り捨てるという言い方をするとあれなのですけれども、優先的に例えばインフラの整備をしていく所と、そこは後回しにせざるを得ない所といったことを判断しなければいけないようになってくるのではないかと考えるので、非誘導区域においては若干後回しになってしまうというようなニュアンスが少しでも伝わるような書き方にしたほうが、要は、誘導区域を積極的に整備して住みやすくしていくというような方針が、このマスタープランから伝わるということも必要ではないかと思うので、その辺りもご検討いただきたいです。

○議長 ありがとうございます。先ほどの指摘も含めて、拠点の部分の書きぶりや、縮小方向にせざるを得ないところについてどう表現するかは、非常に難しいとは思いますが、多分、そこは書き方によって伝えることはできると思います。従来型のインフラの維持とか、従来型のサービスの維持は難しいというところは割り切った上で、そうではない形で生活利便性をどう維持できるかとか、先ほどの新技術の活用といったところへの期待みたいなものも含めてうまく言及いただくということも、今回は大事だと私も思いますので、この点は引き続き議論していきたいと考えております。

では、続きましてお願いします。

○委員 時間も限られていますので、2点だけ。

1つ目は、先ほど委員も言われた、拠点の話です。多分、私もこの流れで同じような認識だと思うのですが、拠点がたくさんあるという計画の書きぶりを継承していくというのが、次期都市計画マスタープランで持続可能性みたいなことを前面に出していく……恐らく本格的な人口減少の局面に入ってから改定としては、初めてではないかもしれませんが、前回もそうだったかもしれないけれども、いよいよ人口減少の局面に入ってきています、これから5年はどうしますかということだと思うのですが、その中で拠点がそのまま残っているというのが、違和感もあるし、それを変えないのかなというのが、素朴な疑問として持ちました。先ほど合併の話をしていましたけれども、少なくとも平成の大合併で合併した市町村で言うと、豊野が生活拠点になっていたけれども、あとは生活中心地がぼつぼつあるだけで、では、北長野駅や篠ノ井が地域拠点だと言って、でも、実際に生活インフラとなり得るような施設などは減ってきている。この3つが地域拠点で、かなりの拠点だよと見せるのが、今の現状に合っているのかということも疑問だし、その地域拠点も生活拠点、生活中心地とそれぞれ細かく分類しながら、拠点でこれだけあるのだという見せ方が、都市計画の全体像として意味があるのかというところが、率直に疑問に思いました。これが1つ目です。

2つ目は、資料10の8、9ページについて、総計で「市民の幸せの実現」「持続可能なま

ちづくりの推進」「長野らしさの発揮とまちの活力の魅力の創出」と書いていて、それを受けて、都市計画マスタープランの理念はこうだというご説明だったと思いますが、この総計のまちづくりの方針の3つが、この都市計画マスタープランの理念や9ページで都市づくりの理念と書いているこの文言になるというのが、正直、ぴんときななかったというか、つながっているということですが、本当につながっているのかがよく分かりませんでした。そこからまた、都市づくりの目標としてまた3つ出していくと。総計ではまちづくりの方針を3つ書いていて、マスタープランでは「都市づくりの目標」という同じような言葉で、また違う3つが出てくるというところも、論理的なつながりがよく分からなかったです。特に、抜けたのではないかと疑問に思ったのは、総計の「市民の幸せの実現」はどこにいつてしまったのかというのがあって、これも包括してつながるような目標を設定したほうが、せっかく子育て世代のアンケートや若者アンケートをして、そこで子育てしやすいまちづくりを実現しましょうとか、将来に向けて明るい話として、若者がもっと活躍できるまちをつくりましょうとか、先ほどの市長との意見交換会でもコミュニティがうんぬんと言っていて、そういう平仮名のソフト面のまちづくりみたいなところも触れていくのであれば、幸せの実現のところも盛り込んでもいいのではないかという気がしました。これは感想ベースなのですが、以上でございます。

○議長 ありがとうございます。大事なポイントというか、都市計画マスタープランの理念というのはポジティブに書くべきものだろうと思うところが私もあります。持続可能というのは重要なキーワードではあるのですが、あまりポジティブなワードでもないというか、必要なこととしてやらなければいけないことですよね。その辺は、ぜひ総計の中の文言うまく使っていただきながら作っていただければと思います。

では、続きましてよろしくをお願いします。

○委員 個人的にまちづくりの専門家などの視点ではない中で感じているのは、特に今の理念や目標のところ、これは今の現行のまちづくりの話だと思うのですが、第5次とこの話が、整合性がとり切れてないというか、例えば、人口減少に歯止めをかけようと言っているけれど、それが前提になっている今までの話の全体の中で、例えば中山間地域から集住させていくという話になっていくのかどうか分からないですけれども、そういう人口減少渦でのまちづくりのあり方を考えていくと、いわゆる都市計画的な話だけではなく、長野市では中山間地をどうしていくのだというビジョンがないと、本当にそういう人たちの幸せの実現みたいなところに対しての話が、議論としても整合性がきちんととれるということが都市計画では大事だと思っていて、逆に、まちづくりの視点がソフトに活かされることもあると思います。そのセット感みたいなのが、今はあまり感じないので、そこは進め方として検討していただければと思います。それが1つです。

もう1つは、いかに魅力ある都市づくりをしていくかということところです。その中の視点に立つと、今日の議論やここまでの話で感じていたのは、今の都市づくりの目標なのか、先ほ

どの市街地に緑が少ないみたいな話ではないですが、魅力を都市づくりにという、次回のところになってきたときに、そこは大きなテーマになってくると思います。子育てしやすい住環境なども、もしかするとそこにひも付いていたりとか、結構、この今の着眼点の中でもいろいろ掛け算が起きそうなところがあるので、そこは次回みたいなところと、あとは、都市計画上のところでは一番大きいと思っているのは、魅力づくりみたいな話とか、先ほどのサードプレイスの話もそうですが、そういう話になればなるほど、行政だけで何とかできる話ではなくてくるというときに、逆に民間がそういうことをしたいと言ったときに、先ほどの災害の可能性があったり、市街化調整区域みたいな話とかは、結局、そういう人たちが何か新しいサードプレイスをつくろうとも、市街地にそれができる場所がないとなったときに、そこでやるしかないからやっているという部分があると思っています。それを、シンプルに、災害の可能性があるからそういうことも全部やってはいけないというよりは、もう少しうまく、いわゆる、すぐではない取り組み、だけど、サードプレイスとかという、いわゆる新しいことをしていったりとか、もっと人が集まる場所をつくっていくみたいなことというのは、実は調整区域などの所も可能性が出てくるのではないかと、あと、今の居住の拠点以外でもそういうことが起きてくるというか、逆に言うと、民間とかやる側からすると、もうある程度開発された土地で何をやるにもコスト的にかなり難しくて、サードプレイスなどと言っている場合ではないという話になってくると思うので、都市計画としてそういう民間側とか開発する側を担う側のニーズと今の長野市の都市計画は結構ミスマッチしている可能性は正直あるなというのは、今日、お話を聞きながら感じたので、そこをどう検討していくのかというところは、この着眼点と方向性として盛り込めるといいかもしれないとか、議論の進め方として何かあるといいのではないかと、今、話を聞きながら思っていました。

○議長　ありがとうございます。そういう意味では、行政として投資をするべき部分という話と、民間としてそれぞれのエリアごとに、地域の魅力を高めたり、暮らしの利便性を維持したりしていくためにそれぞれ取り組むというような部分について、災害の危険性があるから全て駄目だという話ではないと思うので、それぞれの区域の位置づけや拠点の位置づけに応じてどういう姿勢で臨むのかといったところは、少し丁寧に議論する必要があると改めて思いました。

では、続きましてお願いします。

○委員　各論の話に入る前に、最初に、この現況と課題について質問を2つほどさせていただきますのですが、人口のことは計画を考える上で大事なことだと思うのですが、資料8の4ページで、平成25年の推計と令和5年の推計で、令和5年のほうが人口の減少が緩和というか、増えるような推計になっているのですが、この理由は何なのでしょう。この推計の考え方は今後も大事になってくると思うのですが、これだけ改善するという推計が出ているのは、例えば長野市で、自然増はないので、移住が進んでいるとか、そういう要素があって、こういう結果が出ているのですか。その点は何か考えられているのでしょ

うか。

○事務局　推計なので条件を設定していると思うのですが、条件の1つとしては、今言われた自然増減があったかということと、もう1つは社会増減なので、平成25年の推計をした時よりも令和5年に推計した時の実績値のほうが、社会増減がプラスに変わっているということだろうと思います。

○委員　だから、その理由は、何をもってそういうふう考えたかという、そこまでを把握されているのですか。

○事務局　すみません、理由は分かりません。

○委員　でもそれは、今後の人口減少を減らして、2060年に30万人にもっていくのを目指す上で必要なことだと思うので、なぜそういう想定がされたか、長野市のどんな動きをもってしてそういうプラスの想定がされたかというのは、解析しておくべきではないかと思ったので、ぜひ教えていただければと思います。

それから、施設の維持管理の関係で、県や国の施設がこの10年間で増えているというデータがどこかにあったと思いますが、人口がこんなに減っているのに、なぜ国や県の施設がこんなに増えているのでしょうか。

○議長　資料9の6ページ、7ページですか。

○委員　すみません。これは何かお分かりですか。

○議長　分かりますか。具体的にどういう施設が……

○事務局　増えている理由までは、今の時点では分かりません。

○委員　分かりました。では、その辺りはまた教えていただければと思います。

○事務局　どの施設が増加しているのかという名前までは分かるので、そのリストをお出しすることはできると思います。

○議長　ぜひ、そういう形で、どこにどういうものができているかを少し具体的に示していただければと思います。

○事務局　それができると多少は……。ただ、なぜかというのは、実際にヒアリングをしていかないと分からないと思います。

○委員　何が求められて、そういう現状が起きているかという様子を知る上でも必要だと思ったので。では、その辺りはまた整理していただければと思います。

○事務局　リストは整理します。

○委員　それらを踏まえた上で、このたたき台について、先ほどから出ている拠点の話は、確かに、本当に人口がこれだけ減っている中で拠点を整理しないというのは、やはりおかしいと思います。先ほど委員が言ったように、ただ整理するのではなくて、中山間地のあり方を考えた上で整理していくべきではないかと思います。アンケートの結果を見ても、中山間地にお住まいの人は、これは趣旨が少し違うかもしれないけれども、できれば別の場所に移ってもいいという人も、ほかの地域に比べれば多いので、生活しづらいそこにいるより

は、拠点を少し整理していくということも本当に考えていくべきだと思います。そういう前提の中で、資料 10 の 9 ページで、「都市構造の再構築」の「市街地の魅力向上と都市計画区域外の拠点の強化」というのは、考え方としてどうかと思いますので、このたたき台を考えると、その文言はぜひご検討いただければと思いますし、

あと、企業立地の話が先ほどあって、若者が生活してもらうためには働く場所の確保は本当に大事なので、産業のことは、今回は土地利用の中に入っているのですが、都市づくりの中で、先ほど言ったスタートアップ企業などの産業構造そのものを考えるようなところも、少し入れてはどうかと思いました。

○議長　　今ご指摘いただいた最後から 2 点目の、「市街地の魅力向上と都市計画区域外の拠点の強化」が引っ掛かるというのは、「都市計画区域外の拠点の強化」の部分ですか。

○委員　　そうです。そういう所の拠点までも強化していくというのは何か違うと思いました。

○議長　　分かりました。ありがとうございます。では、続きましてお願いします。

○委員　　特にありません。

○議長　　分かりました。では、最後をお願いします。

○委員　　産業用地の状況で、引き合いがあるとかないとかというお話があったりして、引き合いがある所が浸水想定エリアだったりしています。この中でないのは 2 番くらいで、それぞれ災害が起きそうだと。改修したあとでも浸水想定エリアになるような所に、そもそも企業のこういう誘致をするべきなのか。そのために、例えば道路の整備をして、上下水道の整備をして、工業団地のようなものをつくるということは、もう違うのではないかと思うのです。先ほど委員から、市街化調整区域でできることをやりたいというお話もあったのですが、簡単だから市街化調整区域で開発行為を重ねていくということは、上下水道のみならず、もちろん道路などを含めても、長野市の負担を増やす行為だと思うので、私としては、そういった形ではなくて、まちなかでやりたいことができるような補助の形に転換をしていて、住居に関しても企業立地にしても、コンパクトにまとめていくよりも、これから先、本当に、この 5 年、10 年はいいいのですが、例えば 50 年後はどうするのかと考えたときに、際限なく広がっていくということはどうしてもここで止めておかなければいけないのではないかと考えています。

須坂にイオンモールが開業します。そうすると、本当にもう長野市の今の商店は、例えば長野駅の辺りも再開発をする予定ですがけれども、それに対抗できるような商業施設ができるわけではないので、長野市自体の勢いもどんどん変わっていくはずですよ。もちろん、例えばコストコとか何かが来るのだったら別ですがけれども、そうでない限りは、長野市の商業は恐らく結構大きな打撃を受けると思うので、もう少し、今ある資産というか、あるものを使って、みんなができやすくする、企業や一般の方ができやすくするというような方向に、もう少しもっていけないだろうかと考えています。

もう1点は、途中から合併をした所に関しては、その地域なりのお祭りがあったり、人のつながりがあったりするので、そういうことについてはやはり維持ができて、ある程度の人口もきちんと維持できるようにしていくとも必要だと思っていますが、実際は、例えば地震があったときの避難所なども、それぞれの地域で持っているので、長野市はとんでもない量の避難所を持っているのです。建築士で応急危険度判定という、災害の避難所となるような所の開設をする前に、我々資格のある者が行って、安全かどうかの判定をして、それから開設をするというような手順を踏むはずなのですけれども、例えば橋が落ちていたり、山の中にたくさんあるような所は、現実的には行けないのです。なので、その辺りの整理を含めて、もう少し先の将来に現実的に何とかできるようなことを、今、考えておく必要があると思っています。

○議長 ありがとうございます。改めて、こういう場で言うべきことを言うというか、示すべき方向性をしっかり示していかないと、すう勢に任せてとか、今までの経緯の延長でということになってしまいますので、その辺りは、当然、実際にフィックスしていく上では非常に難しい面もあると思いますけれども、この場では、やはりあるべき姿をしっかりと議論できればと考えました。

私も数点だけ言いたいことがあります。共通するところも多いのですが、ポイントを絞ってお話をしたいと思います。

先ほどの議論とも絡むのですけれども、今回、理念のところで、「長野の魅力を高めながら将来も持続可能な都市の実現」という言葉で示していただいているのですけれども、7ページにある現都市マスの理念は、とてもきらきらしたワードが3つの項目で並んでいて、若干きらきらしすぎている気もするのですけれども、やはり理念は「長野に住みたいな」と思えるような言葉で表現をすることが大事だと思いますので、持続可能という観点はもちろん前提としてしっかり書く必要はあるのですが、その辺りの表現はもう少しポジティブに、若者が未来に向けて希望を抱けるような表現にしていきたいと思って聞いておりました。

9ページの「都市づくりの目標(たたき台)」のところで、3点まとめていただいています。基本的には非常に重要な観点3つだと思っているのですが、「人口減少下でも持続可能な都市づくり」というところが、まだいろいろな観点が混ざっている感じがします。やはり、集約化というか、めりはりを付けながら、きちんと限られた投資でまちの機能を維持していくための集約化、めりはりづけということが1つ大事であるというところと、経済活力という観点で、しっかり産業立地や、先ほどあったまちなかのスタートアップ、イノベーティブな環境をつくっていくといった観点は、やはり分けて書いたほうがいいと思います。その辺りは、ばくつと書くともまとめられやすいのですけれども、ポイントとして、テーマが変わってくるものは目標が増えたとしても明確にしておいたほうがいいと思いました。

もう1点は、少し戻ってしまうのですが、今回のアンケートの中の、市民アンケートの間14は面白いと思いました。意外と歩道・自転車道の安全性、まちのにぎわい、居心地がよい

と思う場所がもっと欲しいなど、そういうまちの魅力というか、まちの中の過ごし方というか、もっと楽しいまちであってほしいというようなことに対する関心が思ったより高いと思いました。若者に関しても、自転車のニーズや、子育てをしていると、安全で、身近な所である程度用が済むというようなところに対するニーズも非常に多いと思いますので、数字や表だけで見るのではなく、もう少しまち全体の環境として、あるいは、都市デザイン的というか、地域まちづくり的というか、地域の方々と一緒になって、本当に住みたくなる地域の環境をしっかりとつくっていく。単に物があれがいいとか歩道が広ければいいではなく、まち全体として魅力的な環境をどう維持していけるのかというところを、今回のマスタープランでは少し丁寧に書けるといいのではないかという印象を全体として持ちました。

それはまちなかだけではなく、中山間地域に関しても、人口密度も全然違うし機能の充実度も違うと思うのですが、それぞれの地域ごとの暮らしの良さ、若干不便もあるけれども、それに勝る魅力もあると思うので、そういったところを少し丁寧に、地域ごとにどういうまちづくりをしていくのかというところを、ここは重点化する、ここは見捨てるとか、そういうことではなく、それを全 32 地域ごとに書くのは難しいかもしれませんが、少なくとも 3 地域や 12 地域レベルでは丁寧に書けるといいと思いました。

最後にもう 1 点だけ言うと、最初の「分かりやすさ」というのは非常に大事だと思っています。今回、分かりやすい都市マスにしたいということだと思うので、文言や概念の整理のフローももちろん大事ですが、今回、図や、いろいろなデータを地図上でまとめているものがたくさんありますが、表現が結構違ってたりするので、初めて都市計画やまちづくりに関心を持った人がぱらぱら見るだけでも、今、どこがどうなっていて、どういう観点でこのマスタープランを作っているというのが何となくイメージできるように、ぜひビジュアルというか、図の表現は注意、工夫していただけるとありがたいと思いました。全てで千曲川、犀川の川的位置が分かるとか、主要な地域、交通結節点の場所が載っているとか、その辺りの図の表現は大事だと思いますので、最後に仕上げていくところも含めて工夫していただければと思います。長く話しました。すみません。

延長してすみません。では、延長しながらですが、皆さんの意見を一通り聞いて、最後にこれだけ行っておきたいということがもしあればと思いますが、よろしいですか。

(5) 改定スケジュールについて

○議長　では、最後の議題です。議事(5)「改定スケジュールについて」の説明を事務局よりお願いします。

○事務局　資料1「改定スケジュール」をご覧ください。こちらは3枚つづりになっているのですが、1枚目の「変更案2」が今日説明したいものです。2枚目は前回の第3回でお示ししたものの、3枚目は第2回の部会でお示したスケジュールです。3枚目をご覧ください

だきまして、第2回の部会の時は、素案の作成後、パブリックコメントをした後に素案の閲覧・公聴会をするという流れでご説明していたかと思います。第3回の部会では、素案作成後にパブリックコメントのみを実施したいといご説明して、保留事項になっていたのを、改めて素案作成後の意見収集の仕方についてご説明させていただきます。

1枚目をご覧ください。今回、来年夏頃の素案作成後、パブリックコメントをしたいということが1つと、あと、法令的にはパブリックコメントをすれば問題ないということで、それはもちろんするのですが、パブリックコメントと素案の閲覧とを2回実施すると、同じように窓口以案を出したり、ホームページに載せたりと、似たようなことを2回繰り返してしまうので、その代わりというわけではないですが、パブリックコメントに加えて、地区別に意見交換会をして意見を聞いていますので、その方たちに素案についてご意見をいただくほうが、より幅広い人に幅広い立場からご意見をいただけるというところで、パブリックコメントと地区別の意見収集の2本立てでやっていきたいと思っています。

説明は以上です。

○議長 ありがとうございます。前回のご指摘を踏まえて、丁寧に、より充実したプロセスを踏んでいただけるということかと思います。よろしいでしょうか。

私から1点質問ですが、この地区別意見収集は32地区で実施されるのですか。

○事務局 対面で32地区をもう一度全部回るとするのは、時間的にも難しいので、書面にはなるのですが、書面形式で実施したいと思っています。

○議長 分かりました。書面で32地区の方に聞くということですね。

○事務局 そうです。

○議長 了解しました。ありがとうございます。

よろしいでしょうか。では、本日の議事は以上で終了したいと思います。少し延長して申し訳ありません。ここで議長を退任させていただきます。事務局にお返しします。

◎その他

○事務局 ありがとうございました。それでは、次回以降の部会日程についてご案内させていただきます。次回、第5回の部会でございますが、10月15日（水）の14時から、今日と同じく市役所第1庁舎4階の会議室141で行います。次の第6回部会でございますが、12月17日（水）の14時から、市役所第2庁舎の10階の会議室は203で開催いたしますので、ご予約いただきますようよろしくお願いいたします。

お車でお越しの方で駐車券の処理をまだ済まされていない方がいらっしゃいましたら、お帰りの際にお申し出いただければと思います。

◎閉会

○事務局　終わりに、都市計画課課長から閉会のご挨拶を申し上げます。

○事務局　委員の皆様には、大変お忙しい中お越しいただきまして、また、本日は長時間にわたり熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。

先ほど報告いたしましたアンケートに関しましては、委員の皆様にはあらゆる面からご協力いただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。本日皆様からいただいた意見を踏まえまして、次回は都市づくりの理念・目標や分野別の方針について、計画の文章のたたき台をお示ししたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第４回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会を閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。